

# 富士山世界文化遺産に思う

東京新冠会会長 高橋 守



今年5月23日、エベレスト登頂に成功した三浦雄一郎さん、80歳7カ月、持病の不整脈のほか糖尿病その他、諸々の病を抱えながらのエベレスト登頂成功。一般的な人間には考えられない快挙です。

三浦さん曰く、「目標を持ち、チャレンジすることがあれば老いを感じることはない」と言っています。

私も還暦を迎えたとき、目標は小さいが毎年、富士山に登ろうと決意、今年で10回目、古希になりました。

7月、富士山が世界文化遺産に登録された事と、私の70歳を記念して、家族7人で富士山に登頂に成功しました。孫が日本一高い山、富士山に登り切った事には感動しました。

世界文化遺産登録の影響でツアー団体の予約が一杯で、山小屋の宿泊が出来ず、弾丸登



富士登山のため家族全員が特別誂えのTシャツを着用

山でした。家族には苦しい思いをさせた後悔しています。10回目にして一番苦しい登山でした。私は還暦を過ぎてからのことは、あまり考えず、決意したことは必ず行動に移すことを心掛けています。なにか若返る秘訣のようです。

富士山は日本の象徴です。日本の神々様が集まる山であり、霊山でもあります。遊び心の軽い気持ちで登ることは慎むべきではないでしょうか。登山者がますます増えることで、一人ひとりがマナーを十分に守って頂きたいと願う一人です。

# 感謝の25周年

東京美深会相談役 鈴木 武 昌



ふるさと会連合会の皆様、益々ご壮健で活躍の事と推察いたします。新体制となった森降信会長を中心に、絶えず温かい励ましを送って頂き、東京美深会も創立25周年を迎える事が出来ました。心より感謝申し上げます。

北海道ふるさと会連合会を創設された先輩方々の偉業を称え、今日まで立派に支え運営されておられます事にあらためて敬意と感謝を申し上げます。長きにわたりご活躍された故榎本秀雄名誉会長のご冥福を心よりお祈りいたします。

利便性を求め、合理化、情報化、グローバル化の中に埋没し、ともすれば、目標をも見失う不安な時代に、意見も見方も人格も異なっても、それぞれの個性を尊重し合い、皆が仲良く一緒に語らい励まし合い、北海道のふ

# 笑いの効果」と「ふるさと会」

東京東神楽会会長 安井 規 雄



喜怒哀楽は、さまざまな人の感情を意味するが、その中でも「笑い」は病気に打ち克つ良薬らしい。

人体にはNK (Natural Killer) 細胞というのがあるが、これは免疫を担うリンパ球の一つで、感染症を引きおこすウイルスやガン細胞を退治する力を持っている。健康な人であっても、悪性の細胞は体内で生まれるが、NK細胞が頑張ってくれているうちはガン細胞の増殖を防いでくれるという。

これらの細胞の元気を示すのが「NK活性」である。この「NK活性」と笑いの関係は調べた医師がいる。自分の患者さんを大坂の「なんばグランド花月」に連れて行って、

漫才を見た3時間後に患者の血液を調べたところ、NK活性の数値は漫才を見る前より後の方が上昇していたという結果が出た。

「病は氣から」。病氣は氣の持ちようである。いつも明るく、にこにこしている人には、自然に幸福がやってくるという。「笑い」は人の心と密接に関わっているようである。

複雑多様化した現代社会では、ストレスは避けがたい。しかし私たちは、すこしでも「笑い」のある生活のなかで、世の中の暗さを吹き飛ばしたいものであるが、ふるさと会も、その一助でありたいものである。

## 池田税理士事務所

税理士 池田 俊一

うらかわ観光大使  
(北海道ふるさと会連合会 監事)

〒160-0023

東京都新宿区西新宿7丁目16番14号ミクラ西新宿ビル五階  
TEL 03-3361-5998 FAX 03-3361-6945